＜自治労京都府本部　2021 リーダーズセミナー講演録＞

「笑える政治教育ショー」

お笑いジャーナリスト
たかまつ　なな

クイズ「世界の選挙」

みなさん、ごきげんよう。今日は政治についてみなさんと楽しく学んでいけたらと思っていますので、よろしくお願いします。

最初は「クイズ世界の選挙」、世界の選挙から政治のことを考えてみたいと思います…

（中略）

…次に「インドネシアでは、ある変わった方法で投票します。それはどれでしょうか」？

A「候補者の名前が書かれた箱に木の枝を入れる」

B「候補者の首に花輪をかける」

C「書かれた人に耳打ちで伝える」

D「候補者の写真に釘を刺す」

一体どれでしょうか？正解はこちら、D「候補者の写真に釘を刺す」です。ちなみに人の名前を書くというのは日本くらいで、名前を書くのではなくてチェックするとかマークをつける国が非常に多いということです。なぜ選挙についてクイズをやったかというと、選挙の方法って色々ありますが、政治家の人は、自分たちが当選しているからなかなか制度を変えようとは思わない。制度をもっと良い方に喚起していくことが大事だと思っています。ぜひみなさんにも、「選挙制度、このままでいいんだろうか」と考えて見てほしいと思っています。

次にこういう動画をつくりました。

（動画）

…若い人たちへ「選挙なんて行かなくっていい、平和なんだから」「面倒でしょう」「若者よ、選挙に行くな」…「あなたたちは選挙には行かない」「だから私たちが政治を動かしているの」「あなたたちは存在しない人」…

この動画に込めた思いは、「選挙に行かないと損しちゃっている。若い人が特に損しているのを変えたい」と思ってつくらせてもらいました。今日は「選挙に行かないと、なぜ損をするのか」、ここからちょっと考えてみたいと思います。

3分でわかる民主主義

そもそも「民主主義って何なのか？」意外と

知らないんじゃないかと思うので「３分でわかる民主主義」という説明をしたいと思います。

たとえば建物を建てる時、どこに建てるか、どういう決め方があるでしょうか。原始時代、「俺はこの家に住むんだ」と「力」によって決めていました。江戸時代、「そちにはこの土地を与えよう」という「掟」によって決めていました。今はどうやって決めているか。公園とか公民館をどこにつくろうか。みんなで話しあって「多数決」によって決めています。「数」によって決めています。このように「力」によって決めるのを「無政府状態」、「掟」によって決めるのは「独裁体制」、「数」によって決めるのを「民主主義」、ということで日本は「民主主義」ですね。

では、なぜ「民主主義」ってすばらしいのかを考えていきたいと思います。数によって決めると「少数派」の人たちの意見はどうなっちゃうのか。

無視されちゃうのか。そんなことはありません。アメリカで「同性愛者を認める法律」が通りました。数だけでいったら同性愛者の方は少ないですよね。どうして認められたのか。それは話し合いがあったからですね。「そういう人たちに権利がないと、おかしいよね」と話し合いがあったから。「民主主義は多数決」なんですけども、その前にある「話し合い」というのがすごく大事なんです。

でも１億人で話し合えるか、話しあえないですよね。じゃあどうするか。「代表者」を選ぼう、これが「選挙」なんです。「私だったら、この人にだったら自分の考え、全部任せられる。信頼できる人を選ぶ」というのが「選挙」なんですね。

受けるネタ選びでシルバー民主主義に

ここから具体例を見ていきたいと思います。アメリカの場合、長らく黒人の人たちが差別されてきた歴史があります。でも、アメリカ初の黒人大統領としてオバマさんが選ばれました。共感が広がれば人種に関係なくトップになれる。これが「民主主義」ですよね。ドイツの場合、今から７０年前にヒトラーが、なんと「ユダヤ人を絶滅させる」と…ご存じだと思いますが、このようなことをいいました。でも、こんな政策をとったヒトラーは何によって首相になったか。実は「選挙」に勝ったんです、これも「民主主義」なんですね。

民主主義って私たちの使い方次第なんですね。とんでもないことになるかもしれないし、共感が広がれば、すばらしいことにもなる。誰が選ぶのか。2016 年から 18 歳以上に選挙権が導入されました。ぜひこの話し合いに参加する人を一人でも増やしたいという思いで全国を回らせていただいています。

ということで、おわかりいただけましたでしょうか。ここからは選挙に行かないとどんな風に損をするのか、考えていただきたいと思います。私たち、いろんなところへいきます。漫才協会にも入って寄席にも出ています。おじいちゃん、おばあちゃんが多い、そういうところでは政治や歴史のネタをやるんですね。文化祭でそういうことをやると「また授業かよ」となっちゃうので。そうやってネタを使い分けしているわけですけども、これはお笑い芸人だけではありません。政治家の人も受かるためにネタ選びをしているわけです。選挙に行く人たち、誰だろう。「おじいちゃん、おばあちゃんが多いな、じゃあ、おじいちゃん、おばあちゃんのネタをやろう。若者向けのネタをやっても意味ないな」。このように高齢者の人たちの影響が強くなってしまうことを「シルバー民主主義」といいます。　「今はシルバー民主主義じゃないか」といわれているんです。

次に「政治とは何か」ということを考えていきたいと思います。いろんなものがありますが、

私は「お財布の使い道を決めるのが政治」だと思います。たとえばおじいちゃんが、「もっと医療費に回してよ」といったら、若い人が「教育費にもっと使いたい」と、いろんな人がいろんなことをいう中で、大体１年間 100 兆円の日本の予算をどう使うか？お財布を種類別に分けました。この中で教育の予算、若者の予算はどれだと思いますか？…

（中略）

…正解はこちら、黄色の５％です。
赤が社会保障費で年金、医療、介護に、もちろん若い人も病院にいったら使うわけですけど、どちらかというと、おじいちゃん、おばあちゃん向けですね。教育関係費は、なんと５％ということで、先進国でもかなり少ない数字ですね。

でも、これが投票率と何が関係するかということですけど、こちら朝日新聞の記事「投票率が１％下がると、社会保障給付がお年寄りに偏って、若者が一人あたり年間 135,000 円損をする」という数字なんです。衝撃ですよね。今回の投票率、若い人は３％下がりました。これによると 40 万円くらい損をしている。「若者が選挙にいかないから損している」ということで、ぜひぜひ選挙にいっていただきたいなと。

そうですね、ここからは「逆転投票シミュレーション」…

（中略）

…ということで「人口比」は「反対」が勝っていますが、「投票率」を入れたら逆転してしまいました。そうなんです。選挙に行くか、行かないかで結果は変わってしまう。「投票に行かないと自分が損するかもしれない」ということですね。

社会を動かすのは「選挙に行くこと」

あと若者世代は影響力がないのか、若者は社会を動かせないのか？についてご紹介したいと思います。…

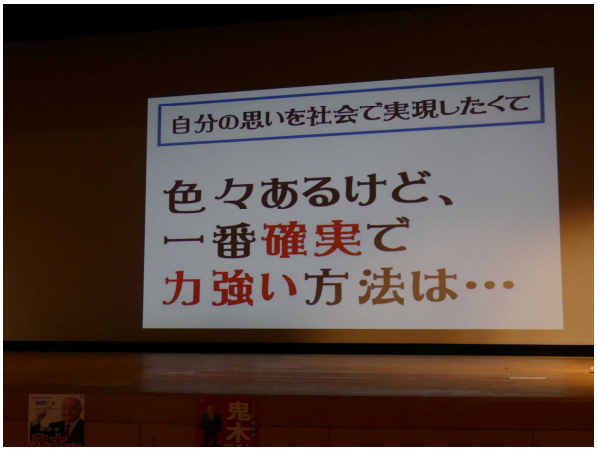
（中略）

…フェイスブックをつくったマーク・ザッカーバーグは大学生の時、女子大生を見た目で格付けするというサイトをつくり、要注意人物としてマークされ、サイトをすぐに閉鎖しました。でも、その失敗にめげずに「自分にとって面白いものはみんなにとっても面白くて便利なものだ」と思いを持って続けていき、フェイスブックをつくり成功しました。

続いてはこちらの方です。１７歳でノーベル平和賞をとられましたマララ・ユスフザイさんです。女性に教育が禁止だったことに反対し、「私も教育を受けたい」と言って銃で撃たれてしまいました。マララさんは奇跡的に復活して「それでも私は教育を受けたい」と訴え続けました。

このように自分の思いを社会に訴える、力強いスピーチをするのは難しいと思います。でも社会に自分の思いを訴える方法は一杯あるんです。一番確実で、簡単な方法は何かといったら

「選挙に行くこと」ですね。なので、ぜひこの権利を放棄してほしくないなと思っています。



ここから投票する時のやり方を「私はこういうことを参考にしているよ」ということをお話ししたいと思います。なんで私がこういうことをするかというと「選挙に行く人たちが少なくなると偏った社会になってしまう」ということですよね。それはよくないと思いまして「選挙にいこう」という活動をしています。投票の二つ軸。私は「公約」と「人柄」を両方見るのがいいと思います。「この公約だったら共感できる」「共感できても、絶対、この人、嘘つきだ。実現する気ないジャン」という人に入れても意味がないので「この人だったらできるんじゃないか」という「人柄」と、二つ、見ることが大事だと思います。

投票先を選ぶ時に役立つもの。候補者の演説とか公開討論会を聞きに行ったり、候補者のツイッターやブログを読む。政権放送を見る。選挙広報を読むなど、いろんなことができると思います。あとは演説に行くことをおすすめしています。人柄がよくわかりますね。

気軽に選んでほしいなと思います。「選挙に行かない」とみんながいったら、少数派で決まってしまう危険性があるので、みんなが参加する、それが「民主主義」の絶対条件だと思います。

今日、お話できなかった内容とか、本になっていますので、よろしければ買ってください。「逆転投票シミュレーション」がカードゲームになっていたり、「悪い政治家を見抜く人狼ゲーム」が本の付録に入っていますので、小学校高学年くらいから、ルビが振ってあるので読めると思います。　また、ユーチューブチャンネルで各政党の党首とかにインタビューしています、ライブです。社会問題とか政治を身近に伝えたいと思っていますので、よろしければぜひチャンネル登録をして見ていただければと思います。

あとは「SDGs」、今日はお話をできませんでしたが、SDGs のことも「ババ抜きのカードゲーム」とかつくっていますので職場とかご家族でやっていただけるとうれしい限りです。学校に出張で届けるということを赤字でもやっているということですので、ぜひぜひご寄付とかをしていただき、サポートしていただけると、うれしい限りです。

ということで、みなさん、本日はご静聴ありがとうございました。